

## 平成27年度 鴨川アクションプランフォローアップ委員会の概要と議事録

### ■開催日時

平成28年3月7日（月） 13:30～15:30

### ■場所

御所西京都平安ホテル 嵯峨の間

### ■出席者

委員9名（敬称略、五十音順）

- 中川 博次（京都大学名誉教授）（委員長）
- 丘 眞奈美（京都ジャーナリズム歴史文化研究所代表、歴史作家）
- 勝矢 淳雄（京都産業大学名誉教授）
- 川崎 雅史（京都大学大学院教授）
- 金田 章裕（京都府特別参与）
- 戸田 圭一（京都大学大学院教授）
- 中村 久美（京都ノートルダム女子大学教授）
- 水野 歌夕（写真家）
- 吉村 真由美（森林総合研究所主任研究員）

### ■報告・議題

- 報告 委員の交替について
- 議事1 最近の話題について
- 議事2 千年の都・鴨川清流プランの取り組み状況
- 議事3 平成27年度 鴨川・高野川の整備状況
- 議事4 鴨川の現況把握等について

### ■報告・議事結果

報告・議事は了承された。

### ■質疑応答・意見

#### 議題1 最近の話題について

- 【川崎】 水防災意識社会再構築ビジョンの策定期限はあるのか。
- 【事務局】 特に期限は具体的に聞いていない。府としては、国と同じ方向性を持って進めていきたい。
- 【川崎】 タイムラインは都道府県独自で設定するのか。
- 【事務局】 都道府県独自に設定するものではない。タイムラインの設定は、淀川等の国管理の大きな河川で国と市町村が作業を進めていくと聞いている。必要に応じて府もその検討に入っていく予定。

## 議題2 千年の都・鴨川清流プランの取り組み

【丘】 御池大橋に完成した鴨川ギャラリーに使われている部材は、以前提案させてもらった京都産木材か。

【事務局】 見た目は木材だが、風雨にさらされる場所で腐食等も考慮して人工木材を使用している。

【吉村】 水辺の自然観察会の開催時に参加者にアンケートは行っているのか。

【事務局】 事前にアンケートを配布し、会が終了する前に記入いただき提出してもらっている。アンケートにより参加者の自然観察会及び鴨川に関するニーズの把握に努めており、今後もデータの収集と解析を行っていく予定。

【戸田】 流下能力図で毎秒1000 m<sup>3</sup>という赤いラインと縦軸の数値が合わないのはなぜか。

【事務局】 毎秒1000 m<sup>3</sup>という赤いラインは荒神橋地点の30年に1回の確率で雨が降った場合の流量です。荒神橋前後のラインは、鴨川へ流入する水量の関係で上流部では下がっており、下流部は桂川の合流点に向かって上がっている。

毎秒1000 m<sup>3</sup>の赤いラインは荒神橋地点の数値と考えてほしい。

【戸田】 昨年度から河川改修を実施した結果、流下能力が改善した数値を流下能力図に反映しているか。

【事務局】 昨年度は、京川橋下流の龍門堰の一部撤去を実施し、流下能力は幾分かアップしたと考えられますが、流下能力図に反映するところまではいっていません。

【戸田】 鴨川の各河川断面で低水路の拡幅や土砂撤去を実施したりしたことで、どれだけ河川改修の効果が出たというデータの収集をお願いします。

【事務局】 下流部で低水路の掘削や拡幅等の改修を進めておりますので、この区間で流下能力がアップしたということが分かるデータ収集を検討します。

【川崎】 低水路掘削や拡幅をした後の表面処理はどうしているのか。

【事務局】 低水護岸の部分にはブロックを張りますが、河道掘削箇所は水が流れるところになりますので、芝を張るとかの処理はしません。

【川崎】 エアコン室外機の件ですが、事業がなかなか進まない場合は、補助金を増やしたりする等の具体的な方策は考えているのか。

【事務局】 エアコン室外機対策の進捗状況が芳しくない理由は、1台当りの補助金は最大4万円となっている一方で実際工事を行うと材料費込みで1台10万円くらいかかってしまうため。京都市産の木材を現物支給して補助金と合わせて実施したところ4万円くらいで済んだ最近の事例もあり、このような事例を公報して制度の周知を図っていきたい。

【丘】 エアコン室外機の件は金銭的な問題もありますが、公報のやり方の問題もあるので、京都市と連携してパンフレットに載せたりする等、いろいろな方法を考えて下さい。

【事務局】 これまでも京都市と連携して公報していますが、より一層公報の手法を考えていきます。

【丘】 いま京都遺産という市の制度があり、鴨川府民会議等でも鴨川を京都遺産に申請するとかの動きはあるのか。

【事務局】 これまで特にそういった議論はなかった。

- 【丘】 鴨川については、いろいろな方々が携わっていて、市民みんなが歴史的背景を認識している。鴨川が京都遺産という文化財になったら社会的に評価される事例になるので申請を検討してはどうか。
- 【事務局】 鴨川府民会議等、いろいろな方々の意見を聞きながら検討していきたい。
- 【丘】 鴨川は京都の顔であり、代表的な川です。遺産により文化発信が進むと思う。
- 【中川】 流下能力図を見ると流下能力が不足している箇所がある。今後の整備方針は。
- 【事務局】 鴨川については、桂川合流点から七条大橋までの築堤区間は流下能力が低い区間となっています。この区間については、平成21年の河川整備計画の中で1/30の河道断面を確保するために低水護岸部分を拡幅、河床を下げる整備を進めていくこととしている。
- 【中川】 進行中ですね。
- 【事務局】 このアクションプランの中で具体的に下流から整備を進めている。
- 【中川】 堀込区間では計画流量を流せるようだが、この区間の整備予定は。
- 【事務局】 三条、四条の堀込区間は満杯評価すると流れる形となるので次の段階での整備を考えておりまずは、河川整備計画での桂川合流点下流からの整備を進めたい。

### 議題3 平成27年度 鴨川・高野川の整備状況

- 【金田】 勧進橋から水鶏橋で桜の植栽をしていますが、桜がうまく育たない場合やその後の管理はどのようにするのか。
- 【事務局】 植栽後の樹木はしっかりとメンテナンスをしないと枯れてしまうこともあるので1年間は業者と管理を行います。その後の維持管理もしっかり行っていますが、予算も厳しいので民間の方の協力や鴨川府民会議で検討している基金等をうまく活用していきたい。
- 【水野】 桜の種類を白妙（シロタエ）にされた理由は。
- 【事務局】 この区間の植栽については、検討委員会のイメージパースに基づいて実施しています。白妙と赤い花が咲く桜を等間隔で植えています。
- 【中村】 鴨川ギャラリーについては、案内版等も整備していますか。
- 【事務局】 一番人が集まる四条大橋に案内版を整備しています。今後は、スマートフォン等を活用した情報発信や多言語化による案内等を検討しています。
- 【中村】 国の住民目線のソフト対策やアクションプランの中に防災教育も含まれているのか。
- 【事務局】 国の住民目線のソフト対策は、住民の方が自ら避難されるために必要な事について住民目線でとりまとめていこうというものです。アクションプランでは、治水対策の中で河川情報版設置等による情報発信や鴨川では洪水予報システムの構築も行っています。また、府ではスマートフォン等を活用しリアルタイムで情報提供できる仕組みも検討しています。
- 【中村】 住民に情報提供するハード対策ということですか。
- 【事務局】 護岸を整備する河川改修などをハード対策としており、情報提供については施設整備も含めてソフト対策としている。情報提供の精度を上げ、住民の方にしっかりと提供できるシステム整備を実施していきます。

- 【丘】 今の話題ですが、東北地方大震災の時にいろいろな学校で大きな被害を受けたが、対照的に被害が全くなかった学校もあり、その学校では、以前から大学教授が自治体と連携して防災教育を行っていたため、被害が無かったとの内容のテレビ番組があった。  
防災教育は重要であり、この委員会でも産学官連携して行っていくシステムづくりも重要と思います。
- 【金田】 この件については、鴨川府民会議でもいろいろな活動の報告があります。  
各種団体が親水空間づくりや鴨川の美化等を行っている。  
野鳥の観察会を通じて鴨川を学んだり、鴨川を美しくする会が小学校で出前講座を開催する等の活動を実施しています。
- 【事務局】 京都土木事務所でも出前講座で小学校4年生に地域の治水に関して授業の中で勉強してもらっている。毎年、積極的に出前講座を開催して鴨川の歴史を授業の中で学んでいる学校もあります。このような学校が少しずつ増えてきている。  
委員の皆様が言われるシステム化も参考にしていきたい。

#### 議題4 鴨川の現状把握等について

- 【川崎】 生物モニタリング調査の継続調査箇所の底生生物の表の種類数の値が平成26年9月と平成27年9月では倍くらいになっているが、平成27年7月に洪水出水があり、大規模な攪乱があったからなのか教えてほしい。
- 【事務局】 平成27年7月に洪水出水があり、大規模な攪乱があったことは事実です。  
調査箇所ごとに土砂の堆積状況も違うことから、今後もデータ収集を行い分析に努めたい。
- 【金田】 鴨川上流域の不法投棄についてですが、現在、府の河川課が主体となって対応している。  
周辺の森林管理の問題もリンクしている。  
鴨川府民会議では、鴨川上流域の不法投棄問題に議論が集中していることを報告します。
- 【事務局】 鴨川上流域の産業廃棄物は、河川沿いの盛土の中にあっただようで、ここ数年の洪水で河の中に出てきたようだ。  
鴨川府民会議でも議論して、河川管理者としてしっかり対応していくということで産業廃棄物等の撤去を昨年春に第1回目、2回目を現在実施予定です。  
森林管理については、山の荒廃により土砂の流出が増加しているとの意見もあり、森林部局と連携して検討していきたい。
- 【吉村】 生物モニタリング調査の継続調査箇所で種類数が増加していることは良い結果。  
河川の中洲管理が十分マネジメントできていると思う。  
砂が溜まっていることに対する生物への影響を見るには造網型の個体数を指標とするとよい。造網型の主な種類は、ヒゲナガカワトビケラというもので、この種類は河床が固定していくと個体数が増える傾向にある。  
中洲管理がうまくマネジメントされていることを評価するために造網型のデータ等をうまく活用して行ってほしい。
- 【事務局】 平成25年と平成27年に大きな出水があり、攪乱の影響が大きいと考えられる特別な調査

時期でもあった。引き続きモニタリング調査を行っていきます。

**【戸田】** 二条より下流の七条までの区間は土砂の除去は行っているのか。

**【事務局】** 二条より下流、特に三条、四条周辺は河川断面が小さいので基本的に土砂が溜まったら取ることで河道断面の確保を行っています。

上流では、景観と環境に配慮しながらほぼ10年のサイクルで土砂撤去をする計画としています。

**【戸田】** 二条より下流では土砂が溜まったら除去をするということか。

**【事務局】** 河道断面が洪水に支障があると判断される箇所等では、すぐに土砂を取るということです。